

化学×モノづくりで海外展開

森六、欧州・アジア攻勢

森六は化学製品などのケミカル事業で世界展開を加速する。欧州で独テュッセルドルフに新事務所を設立したほか、インド拠点のアジア地域のハブに位置付け、日系メーカーや現地メーカーなど新規顧客の開拓や取引拡大につなげる。ケミカル事業の海外売上高比率を2035年に5割(25年は3割)に引き上げる計画だ。

森六のケミカル事業の、モビリティ分野は化学分野での商社機能は中国の需要低迷の能とモノづくり機能を影響を受けている。掛け合わせているのが、中国エリアが低迷する特徴。モビリティ分野の中、欧州・アジア地域をはじめ、ファイナ領域の展開を加速。世界ケミカル分野など幅広く事業展開を迅速化する領域に展開している。欧州では従来、オの。電機・電子分野なーストリアに拠点があるが好調に推移するも、ドイツの新拠



点との2拠点での事業を中核にマレーシアや運営で欧州全域を補完ベトナムなど東南アジアの新規開拓を進める。ア市場に注力する。アジアではインド拠点 欧州・アジアでの事業拡大に加え、アフリカ地域やパングラデシュなど未進出地域を開拓。さらに海外拠点間の連携を強化して、日

8月に独テュッセルドルフに新事務所を設立した

独に事務所・印拠点をハブ化

本の拠点を經由しない「外」外ビジネス」の拡大に注力する。世界展開の拡大とモノづくり事業を一体で推進し、成長機会の最大化を図る。

森六は25年4月に旧森六ホールディングス(HD)傘下で樹脂加工製品事業を手がける旧森六テクノロジーズと、ケミカル事業を手がける旧森六ケミカルズを統合し、森六に1社化した。28年3月期までの3カ年の中期経営計画で、ケミカル事業では「グローバル事業の拡大」がテーマだ。黒瀬直樹社長は海外売上高比率について「35年に50%が目標だが、前倒したい」と意欲を示す。